



土佐希望の家通信

2021年6月16日発行

第98号

発行/社会福祉法人 土佐希望の家
発行責任者/理事長 門田 正坦



1病棟
大利 竜生 様
(お母様)佳奈 様

家族の窓

高知県立高知若草養護学校高等部卒業後、通園やまもでお世話になり、令和元年9月、27歳より1病棟でお世話になっていきます大利竜生です。

出生時、酸欠状態で、また腎臓や膀胱にも疾患があったため、若草へ入学する頃までは入院を繰り返してしましました。1歳頃までは満面の可愛らしい笑みを浮かべることも多かったのですが、入院や手術など、痛いことやしんどいことが多く、また理解することも難しいため、次第に笑うことが少なくなり、自傷行為やつば吐きなどが見られるようになりました。身体機能の発達も遅れていたため、自分で少しでも自由に動けるようになればと、幼い頃は大阪のボバース病院を受診したり、福岡県のやすらぎ荘の療育キャンプに参加したり、子鹿園の母子入園などを行いました。竜生が幼い頃より、私の両親と竜生の4人暮らしで、竜生を中

心とした生活を送ってきました。子育てと仕事との両立ができたのは、父(おじいちゃん)と二人三脚で子育てを助けてくれた母(おばあちゃん)のおかげです。平成30年に、右片麻痺と認知症を患っていた父が最期の日まで自宅で過ごし他界。その後も85歳になった母はヘルパーさんに手伝ってもらいながら、竜生の世話をすることが生きがいのようなのですが、高齢でもあり、難しい面が見え始めたため、入所を決断しました。

入所後も週末仕事を終え、迎えに行き、日曜日に帰園するという生活サイクルにも慣れ始めた頃、コロナウイルスにより面会が中止となりました。昨年7月、初めて窓越面会をおばあちゃんと予定していましたが、その2週間程前におばあちゃんが急死。竜生は大好きなおばあちゃんのお見送りをすることはできませんでしたが、おばあちゃんは風になって真っ先に竜生に会いに行ってくれたと思います。

コロナウイルスという厳しい状況ですが、竜生が元気で過ごすことができていることが何よりもありがたく、希望の家の皆様のご尽力に心より感謝しております。



センター長 挨拶
吉川 清志

昨年初めから1年半にわたり、世界中の人々は新型コロナウイルス対応を余儀なくされてきました。現在、土佐希望の家でも面会の制限、外泊中止、外出は食事や買い物なしのドライブのみとさせていたれています。そのため利用者さんも保護者の皆様もストレスの多い日々をお過ごしのことと存じますが、保護者と職員の皆様の感染対策により、感染者の発生なく今日に至っていることに感謝申し上げます。

しかしながら、感染力の強い変異ウイルスの出現などにより日本は第4波の状況にあり、4月25日には3回目の緊急事態宣言が発出されました。ワクチンについては職員の2回接種は終了しましたが、利用者さんと保護者および多数の県民に接種され、感染が一定程度収束されるまでは、現在の感染対策を継続せざるを得ないと考えています。このような現状において、少し間隔が空きましたが、今年度、第1回「土佐希望の家通信」を発刊することは大変有意義であり、これからは利用者さんや保護者の皆様の声も掲載し、情報交換と相互理解を深める役割を担ってほしいと思っています。

私が平成30年4月に就任して3年余りが過ぎ、計画されていた厨房の改築、玄関・診察室・薬局の改築、災害時の非常用発電機の設置、電子カルテの導入に加えてショートステイ病床の2床増床などが実施され

入所者のペンネーム「SARA」さんが通信発行に
合わせて寄稿してくれました。
元気になれる詩をありがとう!!



この詩と私の気持ち
がびったり合っている写真。
私の気持ちを表現で
きる機会をいただき
ありがとう。(SARA)

3病棟 SARAの詩

「心の手で」
辛い日も
あったけど
なんとか
心の真っくらいたんネルを
心の手で
プチやった
スッキリした
今は
前にすすむとおもっている

【通信編集委員】

- 1病棟 沖支援員・松元看護師
- 2病棟 北岡支援員・西村看護師
- 3病棟 山下支援員・脇看護師
- 医務部 采養課 柏井
- 総務部 林
- 相談支援課 石川

【編集後記】

長らく通信発行ができていなかったので、今回より通信編集委員会のメンバーに医務部、総務部を加え、気持ちも新たに、土佐希望の家の情報をお伝えしていきます。
次号は9月発行予定です。お楽しみに!

ました。今後も事務所の拡張、訓練、洗濯棟の改築などを予定しています。このようなハード面の整備は組織の発展のために重要であり、その目的は利用者さんの医療と生活の質の向上にあり、同時に職員にとって働きやすくやりがいのある職場づくりにあります。加えて人材の育成を含めたソフト面の充実が、真に素晴らしい土佐希望の家づくりには必須です。山崎夫妻の開設当初からの精神はずっと受け継がなければなりません。土佐希望の家には、イベントや誕生会で利用者さんと一緒に笑っている職員、何とか利用者さんに食事を食べてもらおうと奮闘する職員、病状の重い利用者さんを手厚く看護・介護する職員、野菜を栽培して利用者さんと一緒に販売する職員たちがいて、多職種の職員がそれぞれの持ち場とチームで連携し医療と福祉を担っています。私たち職員は知識と技術と心を磨き、利用者さんと保護者の皆様にも協力していただき、関わる全ての人が幸せになれる土佐希望の家を築いていきたいものです。大切なことは、楽しい嬉しいひと時を一緒に味わえることではないでしょうか。



【令和2年度の行事係の取り組み】



令和2年度 行事係委員長 高橋生活支援員

新型コロナウイルス感染症のため、外出や行事は制限され、利用者さんが楽しめるものが極めて少なくなっていました。この施設内で感染対策をした上で何か感動できる体験を提供できないか模索していました。毎年施設全体の行事でカラオケ大会やロードレース大会、花火大会、土佐希望の家祭が行われるはずでしたが、令和2年度はすべて中止となりました。「テーマパークに行きたくても行けない、なら、ここに作ってみてはどうか」というのがきっかけで10月にウォークスルー型アトラクション・アドベンチャー“GoToジャングル”を企画しました。“ウォークスルー”なので感染対策ができ、すべて職員の手作りではありますが、遊び心いっぱい非現実を体験できるアトラクションを再現することが出来ました。そのアトラクションで利用者さんと一緒にとことん遊び、笑い、感動し、素敵な思い出になっています。他にもこの「行けないなら、ここに作る」という発想で、お風呂場に沖縄を再現してリゾート気分を味わえる体験を企画したり、病棟に回転寿司を作って新鮮なお寿司が流れてくるワクワク感を再現したり、このような多くを制限された状況でもまだまだできることや、利用者さんと一緒に体験したいことがあるということに気づきました。



【令和3年度の行事係の取り組み】



令和3年度 行事係委員長 山田生活支援員

今年度より行事係の委員長になった山田です。今年も新型コロナウイルスが猛威をふるっています。いつになったらコロナが終息するのか、元通りの生活に戻るのかをいつも考えています。それは、当施設の利用者さんも同じだと思います。昨年度は、外出や行事の制限があり、希望の家祭も中止となりました。そんな中、GoTo ジャングルを開催、利用者さんの楽しむ姿を見せていただきました。今年度も、外出や行事が制限されることが予想されます。「コロナ禍だからできない、ではなく、コロナ禍でもできることをしよう」をモットーに頑張りたいと思います。

今年度は、どんな行事を企画・開催するのかわかりませんが、昨年度のGoTo ジャングルと同じくらいワクワクする企画を考えたいと思います。「娯楽施設へ行けないのなら、ここに作ろう」という思いで、手作りの動物園や水族館、お化け屋敷などができたらと思います。今年度も、行事で土佐希望の家を盛り上げたいと思います。

土佐希望の家 創設50周年を迎えて

【年譜概要】

- 1963(昭和38)8.8**
山崎勲、祥子夫妻に二男昇君が誕生。出生時の障害による脳性小児まひと診断される。
- 1966(昭和41)1**
「高知県重症心身障害児を守る会」結成
- 1966(昭和41)6.12**
養護施設「希望の家」土佐山田町で開設
- 1970(昭和45)6.1**
重症心身障害児施設「土佐・希望の家」設置認可(定員50名)末光 茂 初代園長就任
- 1976(昭和51)4.1**
定員100名許可・緊急一時保護制度(後の短期入所制度)実施
- 1983(昭和58)2.1**
山崎勲 理事長就任
- 1987(昭和62)4.1**
地域交流ホーム完成・心身障害児通所事業やまびこ教室開設
- 1993(平成5)10.1**
「県重症心身障害児・者通園モデル事業」開所(在宅の重症心身障害者を対象にした県内初の公的なデイサービス)
- 1998(平成10)4.1**
高知若草養護学校分室から分校へ変更
- 2006(平成18)3.31**
土佐希望の家統合記念式典(第一・第二)
- 2010(平成22)4.1**
入所定員140名へ増員・生活介護事業所「やまもも」開設・A型通所をB型通所事業「やまびこ」へ変更・相談支援事業所「きぼう」開設
- 2012(平成24)4.1**
「児童発達支援事業」「放課後等デイサービス事業」開始
- 2015(平成27)4.1**
「保育所等訪問支援事業」開始
- 2015(平成27)6.21**
「山崎ご夫妻を顕彰する記念碑」完成
- 2017(平成29)4.1**
「土佐希望の家 医療福祉センター」へ施設名変更
- 2018(平成30)4.1**
吉川清志センター長(施設長)就任
- 2019(平成31年)3.31**
新厨房棟及び医局等改修工事完成
- 2019(令和元年)7.1**
定員140名から142名へ増員
- 2020(令和2)6.1**
創設50周年



希望の家シンボルマーク
生命と生活の意味を持つ
LIFEのLの組み合わせ。
●は愛 LOVE を大切に
育むことを象徴とした。



【社会福祉法人 土佐希望の家 理念】

利用者の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重し良質な医療と豊かな暮らしを提供します。

～50周年記念誌 山崎勲様・祥子様寄稿 一部抜粋～

社会福祉法人「土佐希望の家」は2020年、1970年の開所から数えて創設50周年を迎えました。

希望の家建設前の4年間、土佐山田で数人のスタッフとともにグループホームのような形で始まったのが前身です。昭和40年代当時はまだ重度の障害を抱えた子どもたちに対し、理解が薄く、認知度も低かった時代ですから、私たちへの風当たりも想像以上に強く、日々神経をすり減らした過酷な時代でもありました。

しかし一方では全国からの励ましのお手紙なども日ごとに増え、見知らぬ海外の方からご協力をいただくこともありました。これまでの思い出と感謝を語ればきりがありません。



土佐希望の家
虐待防止対応の手引き

いいケアしよう 冊子 第1集・2集

【虐待防止・いいケアしよう①】

平成 27 年「高知県高齢者・障害権利擁護センター」に土佐希望の家で職員による虐待ではないかという通報がありました。調査の結果、不適切なケアではあるが、虐待と認定されるものではありませんでした。

しかし、支給決定市町村から指導を受け、また施設としてどうしてこのようなことが起こったのか、起こり得る要因や背景は何なのか等を深く掘り下げて検証を行いました。そこで、虐待防止の具体的取り組みとして「土佐希望の家虐待防止対策の手引き」の作成や病棟会を通して、手引きの全職員への周知徹底、年一回の虐待防止チェックリストによるケアの振り返りを行いました。また、権利擁護研修の定例化、虐待に繋がるような「不適切なケア・行為をなくそうプロジェクト会」の立ち上げ、毎月の虐待防止委員会での各部署・病棟からの報告を徹底し、第三者の有識者の皆様のアドバイスをいただきながら、日々のケアを振り返り、いいケアに向けて継続して取り組んできました。

昨年度は、新型コロナ感染対策で、第三者・有識者の皆様の参加はありませんでしたが、今年度はオンライン会議やメール等でコンタクトを取り、貴重な意見を参考にさせていただき、支援の向上に繋がっていきたく考えています。

今思うことは、職員によって受け止め方や意識、認識の相違があるのも事実ですが、違いの中にも共通性を見つけ出し、お互いのケアを相互的に検証することが、虐待防止の始まりの第一歩だと思今日この頃です。（中西生活支援副部長・通所課長）

【新型コロナウイルスに対する取り組み①】

昨年の2月後半からの新型コロナウイルス感染症の流行により、当センターでは皆様方に制限のある生活に協力をお願いしています。「〇〇に行きたい、〇〇したい、〇〇と会いたい」等の要望に対し、ご希望に添えないことが多く、大変ご迷惑をお掛けしています。また保護者面会も対面面会が叶わず、現在、窓越・施設オンライン・自宅オンライン面会のみとなり、利用者さんやご家族の気持ちを考えてと本当に申し訳なく思い、心を痛めております。

このような状況の中、利用者さんには制限のある生活の中でも楽しんでもらえるように施設全体や病棟ごとで工夫して取り組みを行っています。今後も皆様方の要望に少しでも応えていけるよう努めていきたいと思います。

4月には職員に対して新型コロナウイルスのワクチン接種を行いました。準備が整い次第、6月中からは希望される利用者さんに対してワクチン接種を行っていく予定です。

1日も早く直接会って会話し、触れ合うことができるような日々に戻れることを願っています。もう少しの間、ご協力のほどよろしくお願い致します。（3病棟 酒井看護師長）

吉川センター長
による
「新型コロナウイルス対策」
職員研修

保護者 施設オンライン・窓越面会



新人研修・プリセプター制度

土佐希望の家医療福祉センターでは職員の人材育成の一環として、新人研修の実施やプリセプター制度の導入を行っています。

新人研修には新しく入社された職員全員を対象とした研修（以下法人新人研修）と、生活支援課が中途採用を含めて入社後1年未満の生活支援員に対して実施する研修（以下生活支援課新人研修）があります。

法人新人研修の内容の紹介です。まず、吉川センター長から、「この子らを世の光に」と題して、当センターの役割や障害児者への医療と生活支援、疾患や親の思いなど多岐にわたる内容の講義があります。次に、総務部長から働く心構えとして「法人組織と就業規則等について」の講義、看護生活支援部長からは当センターの状況を踏まえた「重症児者の看護について」の講義、生活支援副部長からは、創設者の山崎ご夫妻の思いを含めた「重症児者の生活支援について」の講義が行われます。最後に「ケア技術と摂食についての基礎知識と実技」を福祉機器・用具の知識に長けたスペシャリストと摂食に関する専門家である言語聴覚士が実施します。

生活支援課新人研修では、「当センターの歴史を学びつつ、生活支援基準をもとに、利用者本位の考えを持ち、理念の実現に向けて行動指針を重んじ、自ら考え、自ら行動できる生活支援員の育成を目指すために、必要な講義と実技を実施し、自らも実践していく」を目的に、年6回実施しています。同期の職員が集まるということで、少し和やかな雰囲気の中、互いの考えの交換や自らの課題の抽出、利用者支援の充実などについての実践報告などを行っています。

プリセプター制度とはベテラン職員が新人職員をマンツーマンで指導する新人研修制度であり、生活支援課が新人職員に対して導入しています。看護師の新人教育で取り入れられることが多い制度ですが、現在では介護の分野でも普及が広がっています。制度の大きな目的として、スキルアップのためだけでなく、早期離職の防止、職場への定着もあります。新人職員は慣れない環境で働くことに対して精神的な不安も抱えます。スキル面でなく、メンタル面においてもしっかりとサポートする必要があります。

当センターでのプリセプター制度では、新人職員の1年後のあるべき姿を明確にし、そこに向かって期間ごとの目標を設定し、実践内容を組み立てています。特に新卒の職員や、介護の経験があっても重症児者に対する支援の経験がない方にとっては安心して働ける環境づくりになっていると思います。また新たな責任感が芽生えたり初心に帰ることが出来たりと、指導する側の先輩職員に対しても成長に繋がる機会となっています。

当センターではこのような研修や制度を活用しながら、職場全体で長期的に人材育成を行っています。（1病棟 北岡生活支援課長）

本年度
第1回(5/20開催)
新人研修の様子



祝・新成人 おめでとうございます！！

1病棟 祥生さん 2病棟 芸華さん 紗菜さん 3病棟 春菜さん



第23回障害者美術展(スピリットアート展) 入賞！！

絵画部門 中内 卓広 様

写真部門 佐藤 誠 様

月おめでとうございます月

テーマ:「ゆうわく」



テーマ:「風景いろいろ」



2病棟
武市 真奈さん
 今年から土佐希望の家で生活支援員として、沢山の利用者の方と関わることができ、とても嬉しく思います。利用者の方の素敵な笑顔を見て毎日元気をもらっています。1日でも早く業務に慣れることができるように頑張っています。

3病棟
宮田 麻衣さん
 精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

3病棟
中西 遥香さん
 今年から働かせていただくことになりました。早く覚えることができるよう笑顔で頑張りますのでよろしくお願いいたします。

通所
角田 知子さん
 毎日楽しく過ごさせてもらっています。もっと皆さんと仲良くなれるように頑張ります。

新入職員☆紹介

1病棟
大峯 愛華さん
 早く皆さんを覚えられるように頑張っていきたいと思っています。これからよろしくお願いいたします。

2病棟
横山 竜弥さん
 3月に高知へ越して来て生活にも慣れてきました。重心の看護は初めてなので学びの毎日です。よろしくお願いいたします。

1病棟
横山 竜弥さん
 少し早く業務を覚え、重心看護に貢献できるよう頑張りたいと思っています。

2病棟
渡邊 由紀子さん
 3月に高知へ越して来て生活にも慣れてきました。重心の看護は初めてなので学びの毎日です。よろしくお願いいたします。

「わたしのお仕事」
 ドクターの1日に密着！！

わたくしのお仕事シリーズ第1弾は、長博雪副施設長兼通所所長に密着させていただきます。

朝8時30分頃に、レントゲン室の準備をします。緊急で撮影しないといけない方が出るかもしれない！と、レントゲン機器の電源を入れます。準備ができたら、2・1・3病棟の順に各病棟を回ります。これは巡視で、当直の間起こったトラブルや緊急の処置の対応をします。

そして9時30分頃、通所に向かいます。利用者さんが到着したのです、お出迎えをします。ご来所順に、診察。またご来所。診察を繰り返して、利用者さんが全員揃う10時30分頃まで行きます。これがなかなか忙しい！あっちへ行ってこっちへ行って、空いた時間に通所玄関で利用者さんのお出迎え。「コロナがあるからさ、マスクしていても距離を取ったり考えなきゃいけない。もっともって、近くでやってあげたいんだけどさ。」と、コロナウイルス感染対策であれば距離を詰められない現状にはそっとつぶやかれました。それでも時間があれば利用者さんに本を読んでいるんだとか。素敵です！！

そうこうしお昼の休憩時間です。お食事を取られて、外へ散歩に。季節で咲いているお花や、田んぼの風景などを、絵葉書にし、ご家族やご友人にお便りしたためておりました。この絵がとても素敵!!色使いもお上手で、編集員の私が画集にしたいほどの作品です。

お昼休憩が終わり、外来患者さんや短期入所の方の入所前診察、院内感染対策等の会議にご出席。そうして多忙な一日が終わります。今回取材させて頂いて、先生のお仕事内容や利用者さんへの愛情、先生のお人柄が改めて拝見でき、とても有意義な時間でした。

今回は看護師さんへ密着！！

(総務部 林)



希望の家に
アマビエが!



毎年10月に、希望の家祭という施設外から参加もあるお祭りがありますが、新型コロナウイルス感染症の流行のため中止となってしまいました。せめて施設内で利用者さんに楽しみを!!と行事係がジャングルを企画しました!! **Go!!To!!ジャングル!!**

森林エリア



何ぞ?
?



アマビエさん、大きいお肉を献上します。



泉エリア



お宝
魔玉

磨き!
あれ!

洞窟エリア



宝箱の身は!!

撮影スポットもあつたよ☆



きらきら光る洞窟を抜けると宝箱が!!

総務部 林

厨房ニュース

希望の家給食には、毎年沢山の無農薬野菜や朝収穫されたばかりの新鮮なお野菜が箱いっぱい届きます。昨年は、レタスや大根・ブロッコリー・新玉葱しいたけ・さつまい芋・かぶなど、沢山のお野菜を頂き、給食の提供メニューに有効活用させて頂きました。



今年も5月初旬に新玉葱を頂き、朝のお味噌汁・夕食の肉じゃがや、鰯とブロッコリーののどろ煮に使用。利用者さんの栄養となっていました。



いつも新鮮で美味しい
沢山のお野菜を
ありがとうございます。
(栄養課 柏井)

寄附

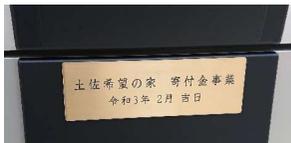
令和2年12月21日

宇野 薫 様
宇野 久二夫 様

創立50周年の声援をいただきました。ご寄付いただきました用途として、3病棟に特殊浴槽を購入し、令和3年2月4日に納品。新しいお風呂に利用者さんや職員も感激しております。感謝の気持ちを込めてお礼状を送らせていただきました。ご寄付、誠にありがとうございました。



令和3年2月、寄附者の方の意向を踏まえ職員食堂に給茶機を設置しました。



令和2年度

- 福原 公二
- 田村 秀子
- 植田 由美子
- 田村 保
- 宇野 誠
- 杉本 久典
- 久保 貴嗣
- 山崎 理恵
- 松本 洋子
- 島崎 長子

令和3年度

- 沢村 正子 (和義)
- 宮崎 保夫
- 竹崎 久泰
- 小田切 泰禎
- 安岡 敏機
- 加藤 久志
- 渡辺 允史
- 前田 靖
- 長田 博
- 吉川 清志
- 山田 茂生
- 野村 久美子
- 田村 秀子

(敬称略)

- 飯島有美子音楽事務所
- 明治乳業南国販売所
- 高野フロン
- 有限会社 大前田商店
- 高知県市町村職員互助会
- 後免地区社会福祉協議会
- 有限会社 大衆理容
- 日本基督教協会南国教会
- 日本キリスト教団 高知教会
- 四国明治
- 高知さんさんテレビ
- 株式会社 ヨックモック

職員一同、お礼申し上げます。

